造形芸術コース・学校教育実践コース（美術教育専修），平面基礎演習Ｉ・絵画基礎演習

絵画の基礎授業について

美術教育講座・東　慶太郎

Ｉ　授業の概要

上記ふたつの授業科目は，学校教育実践コース（美術専修）・造形芸術コースそれぞれの１回生を主対象とした絵画分野の基礎実技（必修科目）である。しかし，学校教育実践コース（美術教育専修）と造形芸術コースでは，課程の教育目標，学生の学習目的・実技能力などが異なっており，実施にあたっては，目的の異なるそれぞれの学生の基礎実技科目として有意義なカリキュラムを編成し，指導内容を工夫することが求められる。

登録学生数と内訳

学校教育実践コース

美術教育専修１回生	１名
特別支援（聴言）３回生	１名
造形芸術コース１回生	11 名
造形芸術コース３回生	４名
計	１７名

授業の目的（両コース共通）

単色（主として鉛筆）による絵画表現（一部，映像メディア表現を含む）を経験し，技法，材料・用具の扱い，画面追究の基本的な考え方を学び，作品の評価や追究方法等に関する判断力を身につける。

授業の到達目標（両コース共通）

１．的確な写実表現（形・調子）ができる。
２．マテリアルを自在に使いこなすことができる。
３．主体的に形態・調子等の造形的追究ができる。
４．作品の優れた点や問題点を客観的に判断し，言葉で評価できる。

関連するディプロマポリシー（ＤＰ）

絵画基礎演習

・教科・教職に関する確かな知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）
・実践を省察し，自己の学習課題を明確にし，理論と実践を結びつけた学習ができる。（関心・意欲）

造形芸術コース

・造形芸術全般にわたる確かな知識と，得意とする分野における高度な専門的知識を修得している。（知識・理解）
・造形活動などの自己探求を継続する中で課題を明確にして，主体的・自律的な学習ができる。（関心・意欲）

授業の方法，形態，内容の概要（両コース共通）

人物をモティーフとしたクロッキー（１ポーズ２分程度）を２回，鉛筆デッサン（８授業時間で１点）を３クールおこなう。ただし，実習内容・スケジュールは，受講生の能力・経験度，進捗状況等に応じて適宜変更することとした。

はじめに触れたように，学校教育実践コース（美術教育専修）と造形芸術コースの学生では実技経験が異なり，学校教育実践コース（美術教育専修）の受講生はキャリアが浅いと考えられる。また，造形芸術コースの学生は，絵画・彫刻・デザイン・工芸のいずれかの分野で専門的な力を身につけたいと考えており，本授業がそれらの基礎実技を兼ねているのに対して，学校教育実践コース（美術教育専修）の学生は，専門性を高めることよりも，将来教師になる上で必要な実践体験として本授業を捉えていると考えられる。

目的はどうあれ，美術を通して修得すべきことは本質的にはひとつのことに集約されるであろう。それはいわば制作実感とでも言うべきもの，言葉による理解ではない，あるいは言葉には変換できないある種の造形感覚や空間意識を体得することである。「造形力」「追究力」「見る力（鑑賞力，指導力を含む）」などを体得する力，つまり美術における一種の「スタンダード」を身につけるには，広く浅く様々な体験を重ねるより，ひとつのことを繰り返しおこなう課題追求型の実習が必要であると考える。

以上の理由により，今回の合同授業でのカリキュラムはおおよそ次のようなものとした。

1. クロッキー（鉛筆など）

学生が交代でモデル（１ポーズ２分を３回）を務め，１回の授業でおおよそ 60 枚程度のクロッキーをおこなう。これはいわば制作の前段階としてのトレーニング，ウォーミングアップであり，次の時間をかけたデッサン制作に向けて「描くこと」に慣れる（気持ちの硬さを取る，対象を大きく捉える等）目的でおこなった。また，今回は割愛したが，多様な描画材料を用いることでマテリアルの修得（描画感覚の違いを知ること）にも活用できると考える。

人体の全身を２分で描くには，集中力だけでなく，ある種の決断力のようなものが必要であり，緊張感・充実感が得られ，受講生には例年好評である。また，学生が交代でモデルを務めることで，はやい段階で授業の雰囲気作りができたことがその後の制作実習への移行におおいに役立ったと感じている。

2．デッサン（鉛筆）

比較的長い制作時間（２授業時間を４回）を設定し，画面追求力が身につくよう配慮した。ここでは，きれいに仕上げることが重要なのではなく，追究することが重要であること,「描くこと」とは絵（描かれた形）が変化し，絵が動いていくことであることを繰り返し強調した。

３．今年度に限って特に意識して取り組んだことは特にない。あえて言えば，先に述べた「スタンダード」。

Ⅱ　アンケート結果（抜粋）

１．この授業へのあなた自身の取り組み状況について，具体的に記述してください。

・積極的に集中して取り組めたと思う。充実した時間だった。

・目標をもって取り組むことができた。

・集中して取り組むことができた。

２．この授業であなたが新たに学んだことや修得したと感じることを具体的に記述してください。

・ デッサンへの取り組み方，考え方を新たに学べた。

・ 基礎的な方法・知識を学び，自分のデッサンにおける課題がよくわかった。

・ 自分の絵を客観的に見ること。

３．この授業の内容について，感想を自由に記述してください。

・数回の授業でクロッキーを行ったのがよかったと思った。全体をとらえる良いトレーニングとなったと思う。

・時間配分は丁度良いと思う。考えながら課題に取り組むことができるので難易度も良いと思う。

・１つのことに取り組む時間が十分に用意されていたので，しっかりとした作品制作ができた。

４．授業者の指導方法等について，評価できる点，改善を要する点などを自由に記述してください。

・合評のときに１人１人に具体的で率直な意見を言ってくれたのが良かったです。

･指導の回数や時期はちょうどよいと思う。説明ではいろんな例えを使っていてわかりやすかった。

・私が１回生の時より途中で並べたりといったことが多くされていて，作品の進め方など比較がしやすくなっていてみんなが成長しやすい工夫があると感じました。

・先生が各学生の所を直接見て回って，気づいた点について指導して下さったのが勉強になった。講評の方法は良いと思うが，講評の時間の前後に，それぞれの作品を鑑賞する時間が欲しいと思った。そうすれば自分のものだけでなく，他の人の良い点・悪い点もわかりやすくなると思った。

・人物デッサンを続けていましたが，クロッキーも途中ではさんで，前回のデッサンの振り返りを簡単にしたいなと思いました。

５．その他，授業環境について，困った点・要望などがあれば記述してください。

・イーゼルに油絵具が付着し生乾きのまま放置されているものがある。油彩以外の作品にその絵具がついてしまうとショックだと思う。

Ⅲ　総括

制作はもちろん，美術教育においても，自らの「判断力」を養うには，自分自身の「見る」力を確かなものにすることが重要である。本授業では，目的（コース）の異なる受講生がそれなりの充実感を得て，影響し合いながら，次のステップへ向かう意欲を持てたのではないかと感じている。アンケートでは大きな改善点は挙がらなかったが，学生個々の資質を伸ばし，創作・教育それぞれに関わる問題意識を高めるために，いっそう質の高い授業を目指したい。